

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 令和 元 年度

事業所番号	2790300095		
法人名	社会福祉法人いわき会		
事業所名	グループホーム錦の里		
所在地	大阪府寝屋川市錦町20-5		
自己評価作成日	令和1年12月1日	評価結果市町村受理日	令和2年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JizyosyoCd=2790300095-00&ServiceCd=320&Type
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人介護保険市民オンブズマン機構大阪		
所在地	大阪市東成区中道3-2-24 JAM大阪2F		
訪問調査日	令和2年2月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム錦の里では、利用者様の住み慣れた地域での生活を支える為家庭的で暖かな雰囲気、笑顔と触れ合いによる居心地のよい環境を整え利用者様とご家族様の心のケアを行い、安心と信頼で喜び広がる幸せ作りの場として「ともに」「楽しく」「和やかに」暮らしを続けられるように努めております。また「気づき」のケアを重視し保持する能力を活かす工夫を常に考え支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昔ながらの住宅街に溶け込む2階建て2ユニットのグループホームです。母体である法人の創設者は地元の開業医。高齢者が住み慣れた町で安心して暮らせるようにと、特別養護老人ホームをはじめ小規模多機能型居宅介護事業所を併設したこのホームを設立しました。地域との結びつきを重視するホームでは、利用者は散歩や商店街へ食材の買い出しに出かけ、地域の行事やイベント、小学校の運動会などに参加しています。また、事業所は商店街の夏祭りに「よろず相談」のブースを設けて地域包括支援センターにつなぐなど地域に貢献しています。管理者や職員は理念を共有し、パーソン・センタード・ケアやユマニテュードの介護技術を習得して日々のケアに反映しています。「利用者さんの自己決定を大切に」「職員の都合ではなく利用者さんの思いを優先して」という管理者の言葉通り、利用者は時間に縛られず好きな時にゆったり入浴し、個々の興味や心身状況に合わせたストレスのないアクティビティを楽しむなど自由な暮らしを送っています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】 令和 元 年度

事業所番号	2790300095		
法人名	社会福祉法人いわき会		
事業所名	グループホーム錦の里		
所在地	大阪府寝屋川市錦町20-5		
自己評価作成日	令和1年12月20日	評価結果市町村受理日	令和2年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	www.kaiokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JizyosyoCd=2790300095-00&ServiceCd=320&Type
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人介護保険市民オンブズマン機構大阪		
所在地	大阪市東成区中道3-2-24 JAM大阪2F		
訪問調査日	令和2年2月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

グループホーム錦の里では、利用者の住み慣れた地域での生活を支える為、家庭的で暖かな雰囲気、笑顔とふれあいによる居心地の良い環境を整え、利用者と家族様の心のケアを行い、安心と信頼で喜び広がる幸せ作りの場として「ともに」「たのしく」「和やかに」暮らし続けられるように努めております。また「気づき」のケアを重視し保持する能力を活かす工夫に加え自己決定を重視し「その人らしく」暮らしを頂けるよう常に考え支援していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

昔ながらの住宅街に溶け込む2階建て2ユニットのグループホームです。母体である法人の創設者は地元の開業医。高齢者が住み慣れた町で安心して暮らせるようにと、特別養護老人ホームをはじめ小規模多機能型住宅介護事業所を併設したこのホームを設立しました。地域との結びつきを重視するホームでは、利用者は散歩や商店街へ食材の買い出しに出かけ、地域の行事やイベント、小学校の運動会などに参加しています。また、事業所は商店街の夏祭り「よろず相談」のブースを設けて地域包括支援センターにつなぐなど地域に貢献しています。管理者や職員は理念を共有し、パーソン・センタード・ケアやユマニチュードの介護技術を習得して日々のケアに反映しています。「利用者さんの自己決定を大切に」「職員の都合ではなく利用者さんの思いを優先して」という管理者の言葉通り、利用者は時間に縛られず好きな時にゆったり入浴し、個々の興味や心身状況に合わせたストレスのないアクティビティを楽しむなど自由な暮らしを送っています。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設玄関の見えやすい所には、法人の理念を掲示して、管理者、職員等が理念の共有に繋げ、グループホームの入り口には、錦の里の方針を掲げて共有を行い、ユニット内での目標を決め職員一丸となり実践に繋げている。	法人名の「いわき(以和貴)会」は、「我々は優しさと思いやりを育み、和を以って貴しの精神を培っています」という法人の理念に由来します。玄関ホールの壁にはこの文言を含む3つの法人理念が掲示されています。 ホームでは接遇委員会が全職員を対象として、法人の理念を日々の言動やケアに落とし込んだ標語を毎月募集し、選考して各ユニットの玄関口に掲げています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事等には、積極的に参加し小学校の運動会やお祭り、町内会全体で行う清掃や餅つき大会に地域の一員として参加し施設利用提供を行い日常的に交流している。	自治会に加入し、地域の行事や祭りに参加するほか、隣接する小学校とも運動会などを通じて交流しています。事業所でも市社協の地域住民の緊急時安否確認「鍵預かり事業」に協力、商店街の夏祭りには介護や認知症の「よろず相談」ブースを設け、地域包括支援センターにつなぐなど共助の関係を築いています。また、地元出身の管理者の元には住民から、さまざまな相談や情報が寄せられます。開設から10年、さまざまな取り組みを通じて地域の中で認知症への理解も深まり、ボランティアや協力者が集まります。	

3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>認知症の情報発信地となるように相談に来られた方々の思いを聴き、ケアに関する事や場合によっては包括支援センターと連携し地域の方々に貢献出来るよう窓口を設けている。 運営推進会議においても認知症の理解を深めて頂けるよう努めている。 また、地域独居の方の安否確認の為、自宅の鍵を預かる、「鍵預かり事業」にも参加している。 又、最近では地域の夏祭りなどに参加し、ブースを設け【認知症相談コーナー】を行い地域の方々に発信している。</p>		
自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2カ月に一度定期的実施し、施設の利用状況や地域行事への参加、施設への意見を入居者、家族様、町内会役員、市役所職員、包括支援センター職員に参加して頂き、話を伺いサービス向上に活かしている。</p>	<p>併設する小規模多機能型居宅介護事業所と合同で運営推進会議を2カ月に1回開催しています。出席者は自治会会長・副会長、老人会代表、地域包括支援センター職員のほか、利用者や家族にも持ち回りで可能な限り参加を要請しています。会議ではホームの事業活動やホームと地域の行事活動、防災などについて報告・連絡し、話し合った内容は職員と共有してサービス向上に反映させています。</p>	<p>次のステップに向けて期待したい内容</p>

5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>地域包括支援センターと常に連携を図る事や、事業活動の中から発生した疑問等については、常に市町村担当者に相談している。</p>	<p>措置入所の利用者もあり、管理者や介護計画作成者は市職員と日頃から密に相談や連絡を取り合っています。事故報告書については、法人と包括支援センターを介して市担当者に届けています。 その他、グループホーム連絡協議会に参加し、市の状況や他のグループホームとの情報共有を図っています。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>日中は、玄関の施錠せずに開放するようにしている。 毎月、身体拘束廃止委員会を開催し身体拘束について話し合い職員全員に周知するようにしており、内外の研修等にも積極的に参加し全体で周知するよう努めている。</p>	<p>管理者や職員は法人が開く身体拘束廃止や虐待防止、人権に関する研修に参加し、利用者の尊厳を守るケアを実施しています。各階のグループホームの玄関と1階の小規模多機能型居宅介護事業所の玄関は日中、原則開錠しており、ユニット間を往来するエレベーターは暗証番号などなしにも自由に乗り降りできます。 センサーマットの使用については、原則夜間に限定し本人や家族から同意書を得ています。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>事業所内の虐待については、職員全体で入浴、排泄等に注意を払い防止に努めており、毎月虐待防止委員会を開催し法人事業所会議にも報告を行い職員全員に周知徹底している。また積極的に法人内、外の研修に参加し意識の向上に努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人や日常生活自立支援制度を利用されている入居者がいる為、実際に入居者と関りを持ちながら、制度を学び支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時には入居者や家族様に十分な説明を行い不安や疑問点を尋ね、不明な点については納得されるまで説明を行い、契約後でも不安や疑問、わからない点については随時面談し説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や家族様に運営推進会議に出席して頂き、ご意見、ご要望等を伺い運営に反映している。 又、御意見箱の設置も行い、意見を取り入れるようにしている。不定期ではあるが、家族会議も開催している。	利用者家族や後見人に運営推進会議の案内を送付し、本人や利用者家族は持ち回りで参加しています。その他、アンケートや、行事・訪問時の際に直接、個別に話を聞き、聴取した意見や要望をリーダー会議やユニット会議で取り上げて運営やサービスに反映しています。利用者からの要望により、以前は開錠していた建物の玄関を、防犯上から施錠してインターホンを取り付けた事例があります。	

11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月、リーダー会議、ユニット会議を実施して職員の意見を聞き運営に反映させている。また、個人面談を行い職員個人個人の意見も聞くようにしている。</p>	<p>「和を以って貴しとする」を理念に掲げるホームでは、職員間で意見や要望が言いやすい風通しのいい環境です。管理者やリーダーは職員から運営に対する意見やアイデアを聞くだけでなく、悩みや心配事についても進んで聞き出すようにしています。管理者は自身の体験も踏まえ、家事や子育てが両立できる職場環境づくりに取り組んでいます。</p>	
自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>施設内にて職員がリラックスして休憩がとれる様に畳部屋にカーテンを取り付けたり、ベランダにベンチを設置する等の工夫を施し環境整備に努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>向上心を持って働ける様に勉強会を開きスキルアップして頂ける場を設けている。施設内外の研修には、出来る限り参加すると共に参加出来なかった人に講習や研修資料の回覧、伝達講習も行っている。又、資格取得の為に貸付制度も設置し、管理者は人材育成についての研修に参加している。</p>		

14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>研修等で知り合えた同業者との3か月に一度の情報交換会に参加している。尚、担当ケアマネが連絡会等の事業所連絡会にも参加し、管理者、職員も地域の同業者で実施している親睦会に参加し交流を深めている。</p>		
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居相談があった場合は、必ず本人様と面会し、本人様、家族様に施設見学して頂き、しっかりと説明する事で、安心して入居して頂けるよう努力している。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居契約時に困っている事、不安な事、要望等を聞いて確認させて頂く様に努めている。又、不安等がある場合には、入居契約後であっても面談し説明を行い信頼関係を深めるよう努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>サービス導入時の聞き取りは必ず行い、必要と考えられるサービス等は高齢介護室、社会福祉協議会等の公的サービスやその他のサービス等に確認し対応に努めている。</p>		

18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>入居者の出来ない事に注目するのではなく、出来る炊事や洗濯物等は毎日職員と共に、又は入居者同士で行い、職員は出来る限り入居者に寄り添い会話をし、入居者同士の交流を深めるように努めている。</p>			
自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>本人様、家族様との絆を深めて頂く様家族様と自由に外出、外泊、外食等行って頂いている。又、家族様には、施設での生活風景や行事の様子を写真付きで掲載した新聞を郵送し、行事にも本人様と共に参加して頂く様、声掛けさせて頂いている。</p>			
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>家族や知人の面会は自由に、いつでも訪問して頂いている。又、馴染みの場所やお店等には職員と共に訪問したり散歩する事で関係が途切れない様に努めている。</p>	<p>利用者は職員と一緒に商店街のほか、近隣にある馴染みの店(喫茶店・居酒屋・理美容店)や町内に住む友人宅を訪れるなどしています。貿易商だった利用者に活躍していた頃を回想してもらおうと飛行場を訪れたケースがあります。 1階リビングの窓のカーテンを取り払ったことで、窓の前を通る住民と会話をしたり、保育所に登園する園児を見送るために早起きするようになった利用者もいます。</p>		

21		<p>○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>椅子やテーブルの配置等施設内の配置を常に考え必要な場合は席替えを行う。入居者が楽しく孤立しない様に支援し、不穏状態等の場合も、移動先の入居者に確認後、一時的に席の変更をさせて頂いている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>他事業所に移られても、必要な情報は必ず提供している。転居された方に対しても面会等行い、関係が途切れない様にしている。</p>		
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<p>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>					
23	9	<p>○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日頃の会話や声かけの際、入居者の表情や態度からその日の気持ちや状態を把握して必要な場合には居室にてゆっくりお話を聞かせて頂いている。</p>	<p>理念に基づき「利用者さんの自己決定を大切に」を合言葉にするホームでは、パーソン・センタード・ケアやユマニチュードの技法を取り入れながら利用者の表情や言葉、発語や態度から本人の立場に立って思いや意向を把握するよう努めています。 意思疎通が難しい利用者の思いや意向を把握する方法の一つとして「ひもときシート」を活用しています。</p>	<p>聞き取った利用者の思いや意向は日々の記録に残していますが、職員間の情報共有のためにも一枚のシートに集約整理してはいかかでしょうか。その人らしい暮らしの支援につながるケアや計画書作成にも役立ちます。</p>

24		<p>○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居時の聞き取りや入居者が以前に利用されていたサービスの情報提供を基に出来る限り今までの生活、暮らしを変えない様に、知り得た情報を職員全体が共有出来る様に努めている。</p>		
25		<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>日々の暮らしの現状を観察し記録に残し、必要があれば申し送りノート等を活用し職員間で伝達出来る様にしている。</p>		
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>日々状態の変化がある時には、家族様の意見、意向を尊重しながら計画の変更を行っている。月に一度ユニット会議でカンファレンス・モニタリングを行い介護計画に反映している。又、生活機能向上委員会や口腔衛生ケア指導会議等開催し計画に反映させている。</p>	<p>計画書の見直しはおおむね6カ月に1度ですが、毎月開かれるユニット会議でのカンファレンスでモニタリングを行い、必要があればその都度見直して利用者・家族の同意を得ています。計画書の目標に対して日々の状況を記録できる月毎の「モニタリング・サービス経過記録表」を作り、最新の計画書と合わせて個別ファイルの本体とは別にファイリングすることで職員がいつでもすぐに計画書を確認できるよう工夫しています。</p>	
自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>関わったそれぞれの職員が適宜記入を行い、情報を共有し介護計画作成の基本としている。個人記録や申し送りノートを活用してユニット会議で話し合いを行っている。</p>		

28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人様が希望のある場合で、職員の対応が難しい場合には、介護保険外サービスを利用出来る様、家族様や成年後見人等に確認して利用して頂ける様に取り組んでいる。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域ボランティアの方の利用や地域の行事に参加する事でリフレッシュして頂ける様に心掛けている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>それぞれ本人様や家族様に添った、かかりつけ医を中心として、それぞれと連絡を取りながら関係を築き、個人に合った適切な医療を受けられる様に支援し、受診が必要な場合や希望があれば職員付き添いにて受診して頂いている。</p>	<p>ホームでは提携の医療機関より月2回医師の往診や看護師の訪問で健康管理を行っています。夜間や緊急時も医師や看護師と連携し24時間、適切な医療を受けられるような体制を整えています。入居前からのかかりつけ医への受診も本人や家族の希望があれば可能です。通院の付き添いは原則家族ですが、必要に応じて職員による同行受診も行っています。24時間の医療体制の整備は利用者、家族、職員の安心につながっています。</p>	
自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	

31	<p>○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護職員が勤務していない為、訪問看護師に週に一度訪問して頂き、日常の関わりの中での気づきや情報を伝え、相談を行っている。緊急時には 24 時間連絡出来る体制をとっている。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>病院の入院や退院時には、職員が家族様や成年後見人等と病院に行き、入院手続きや説明を聞き、必要な場合には入院時の付き添いも行い、安心して治療が出来る様にしている。又、入院先の医療連携室と密に連絡を取り合い入院中の状態や退院後の対応について相談や情報交換を行っている。</p>		
33	<p>12 ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>少しずつ看取りが増えてきており、支援の在り方や、方針については、まだまだ課題があり、どのような状況にも対応出来る様に、本人、家族、主治医、訪問看護、職員と今後も話し合い共有していく。又、管理者やリーダーは定期的に研修に参加し職員にも内外研修にて意識の向上を図ってもらっている。</p>	<p>入居時に終末期や看取りについてのホームの支援方針を説明し、本人、家族の意向を確認して書面にしています。利用者が重度の状態になった場合は再度、本人や家族の意向を確認した上で家族、主治医、看護師、介護職員と支援方針を検討・共有し、チームで支援に取り組んでいます。併設する小規模多機能居宅介護事業所の宿泊室を利用して家族の支援も交え、これまで2名の利用者を看取っています。ホームでは定期的に終末期や看取りの勉強会、研修を実施し、職員が負担なくよりよい看取りケアができるよう体制を整えています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訪問看護師による事故発生時及び初期対応の勉強会に加え、消防署主催の普通救命講習等に参加している。参加した職員より伝達講習を行い職員全員が事故や急変時スムーズに対応出来る様にし、事前に希望搬送先や家族様の緊急連絡先、職員の招集順位等を決めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消防訓練を通して昼夜の避難誘導や災害時の避難経路を確認し安全な避難方法を検討すると共に運営推進会議にて地域の方への協力要請をお願いしている。自治会役員の方より近隣住民や地域の方が避難時等に応援に来て頂けるとの声も頂いている。最近では、水害想定での避難訓練等も行っている。	年2回、夜間想定も含む消防訓練を消防署の協力を得て行っています。地域との協力体制も築かれ、災害時の具体的な支援内容についての話し合いができています。各種災害対策のマニュアルを整備していますが、立地条件からもっとも危惧される水害対策についてホーム独自のマニュアルを検討中です。災害時の備蓄は数か所に分けて保管、賞味期限等の管理も定期的に行っています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人内に接遇委員会を設置し入居者への態度や職員の接遇態度の研修会を行い、毎月の標語を施設内に貼りだし職員への意識付けを行っている。職員の対応等、家族様へのアンケートも実施している。ユマニチュードやパーソンドセンターケアの研修を実施し入居者の人格を尊重したケアを実践している。	職員は一人ひとりの意思や自己決定をととても大切にしています。法人全体で接遇マナーやユマニチュード、パーソン・センタード・ケアの研修を実施し利用者の誇りや尊厳、プライバシーに配慮した対応を学んで実践に活かしています。職員より募集した標語の掲示は職員のモチベーションが上り、ケアの質の向上にも繋がっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来る様な声掛けを行い自己表現や意見の言い易い環境や関係作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活面全てにおいて一人ひとりのペースを尊重し、暮らしの主体者として入居者が自由に自分らしく生活出来る様に援助している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理美容を取り入れており起床時や入浴時には好きな洋服を選んで頂く様にし、外出時にも着替えを行える様に声掛けを行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	音楽をかける等雰囲気作りをしており食事の提供は栄養面や衛生面を考え業者に発注しているが、月に3～4回入居者と職員と一緒に料理し、職員や入居者の全員で食事する様にしている。	食事は通常、業者に委託していますが、月に3、4回は職員と利用者と一緒に調理しています。食材を切ったり炒めたり、調理している時の利用者はとても生き生きとしています。食事中は音楽が流れ、利用者は落ち着いた雰囲気のなか自分のペースでゆったりと食事を楽しんでいます。	
自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	

41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事量や水分量、排泄のチェックシートを作成し排泄時間等、一人ひとりの状態を把握し、1日の摂取量等が確保出来る様にしている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>口腔ケアは、入居者の自立度に合わせ、自分で出来る方には促しを行い、介助が必要な方には職員が介助しケアしている。食前には口腔体操を取り入れ飲み込みや嚥下がスムーズに出来る様にしている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>排泄チェックシートにより排泄パターンを把握し個人的にトイレ誘導や定期的なトイレ誘導する事により失敗を少なくする様に援助している。</p>	<p>職員は利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を心がけています。トイレでの排泄を促すことにより、入居前はオムツや紙パンツにパッドを使用していた利用者も日中は紙パンツで過ごさせています。排泄の自立は皮膚のトラブルの軽減やオムツ代の節約にもなっています。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>便秘予防として、毎日運動を日課に取り入れレクの実施、おやつ時にヨーグルトや繊維質の食べ物を提供し、排泄チェックシートを使用してKOTのカウントを実施、3日間排便が無い場合は医師の指示により薬剤を使用して排便を促している。</p>		
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容

45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>職員の都合で曜日や時間を決めず、午前中を希望する方、午後を希望する方や一番先に入浴を希望される方を把握して見守り、又は介助を行なっている。</p>	<p>入浴は個浴で同性介助を行っています。週2回の入浴を基本としていますが治療上や本人の希望で毎日入浴している利用者もいます。入浴の時間帯は状況に応じ夜7時30分まで対応しています。入浴を嫌がっていた利用者も好みの入浴剤を選んでもらう等の工夫により、入浴が楽しみになった事例もあります。ゆず湯や菖蒲湯も取り入れ季節が感じられる入浴の実施は利用者に喜ばれています。希望があれば、自分専用のシャンプーやリンス、石鹸使用も可能です。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>眠れない方には、職員が居室内にて傾聴や会話に寄り添ったり、フロアにて一緒にお茶を飲んで頂く等、リラックスし安心して気持ち良く眠れる様に支援している。</p>		
47		<p>○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>服薬管理は、医師の指示のもと、職員が行っており、各職員には薬の副作用や用法、用量を処方箋にて確認する様様に伝達しており、薬の変更により変化等があれば随時、医師に報告している。</p>		

48		<p>○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>日々、入居者の生活歴を踏まえ、趣味嗜好・特技等の把握に努め自己の力を発揮出来る様な関りを心掛け、プログラムやレクにおいても入居者の意向を伺いながら実施している。</p>		
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>個々の希望により散歩や買い物等には職員が付き添い、日々、気分転換して頂ける様に声掛けや促しを行い外出して頂いている。又、家族様等来所時には、一緒に外出して頂いている。</p>	<p>職員と一緒に近隣の小学校に出かけ学校で飼育している動物にエサをあげるのを日課にしたり、幼稚園の花壇の花を眺めるのを楽しみにしたり、利用者は日常的に近隣を散歩しています。買い物の希望があれば地域の商店街やドラッグストアに出かけ、職員の運転する車でショッピングモールに行き、外食する利用者もあります。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>管理不可能な方には、家族様、成年後見人等と話し合い、金銭管理を施設で行い、金銭出納帳を作成して、家族様、成年後見人等に残金確認して頂いている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>いつでも利用出来る様にしている。希望により携帯電話を居室に置いて頂いている。手紙が来た時には、返事を書く様に支援している。</p>		

52	19	<p>○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有の空間には、入居者が皆で作成した貼り絵や作品を飾る等の工夫を行い、快適で楽しく過ごせる様にしている。又、職員が温度調整やカーテン等で光の調節を行っている。</p>	<p>各ユニットとも白を基調とし、日中は日の光が入る、明るく清潔感のある建物です。ユニット入り口には畳間があり、利用者が足・腰を伸ばしくつろげる場所になっています。リビング兼食堂には季節の飾り物や、壁には利用者と職員で作成した作品を飾っています。食堂にはゆったり座れるソファがあり、食後も居室に戻らず日中はリビングで過ごす利用者も多くみられます。道路に面した1階のリビングの窓は往来の人が見えるようにカーテンを払い、窓越しに幼稚園や小学校に登校する子供たちを見送るなど地域住民とのふれあいの場所になっています。また、2階のベランダにはベンチを置き、外気浴や雑談の場に利用しています。</p>	
自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>限られた空間の中で、一人で過ごせる場所を設ける工夫を行い、ソファを設置する等、入居者が快適に過ごせる様にしている。</p>		

54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家族様や成年後見人と相談し本人が落ち着いて、心地よく過ごせる様に、ラジオ、テレビ、椅子、机等、本人の馴染みの物を置いて頂き、くつろいで過ごせる様努めている。又、本人や家族様の希望により、塗り絵や書道等の作品を壁に貼る等している。</p>	<p>各居室にはベッドと整理ダンス、洗面台が備え付けてあります。利用者はこれまで自宅で使っていた机や椅子、テレビ、壁時計、写真等を持ち込み馴染みの物に囲まれ、心地よく過ごしています。仏壇や愛読書を並べている部屋もあります。また、馴染みの物を持参できない利用者には職員がリサイクル家具を用意したり、レクリエーションで作成した作品を本人と一緒にレイアウトを考え飾ったりしています。利用者一人ひとりが安心して暮らせる居室づくりに努めています。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレや居室の扉に張り紙を行い場所が明確にわかる様工夫している。</p>		